

米軍Xバンドレーダー基地反対・

京都連絡会 会報

通巻 No.4

発行：米軍Xバンドレーダー基地反対・京都連絡会

(旧名 緊急京都府民の会・南部連絡会)

連絡先： 京都市上京区四番町121-5 大湾宗則

2013年12月26日

TEL/FAX： 075-467-4437

E-mail： ohwankyoto@nifty.com

米軍Xバンドレーダー基地建設反対

1200人の人間の鎖

京丹後市役所囲む



「京丹後市・経ヶ岬に米軍基地はいりません 平和の叫び&人間のくさり」が12月15日、京丹後市役所前でおこなわれ、地元や関西各地から約1200人が参加しました。うち近畿連絡会からは約200人が参加しました。

集会の最後に、手をつないで同市役所を囲む「人間の鎖」をおこない、シュプレヒコールを繰り返しました。

その後、参加者は横断幕やのぼり、プラカードを持って市役所周辺をデモ行進し、米軍Xバンドレーダー基地建設反対をアピールしました。

市役所前での集会に先立ち、近畿連絡会約160人は、バス4台で経ヶ岬のXバンドレーダー基地の視察に向かいましたが、穴文殊の参道を100人を越える機動隊が封鎖・占拠しており、穴文殊のところまで行くことはできませんでした。参加者は国道から基地建設予定地を視察しました。



12・15 現地闘争の記録

① 前日のフィールドワーク（詳細は別紙）

14日 13時から フィールドワーク
14時30分から 学習会
15日朝 各戸ビラ入れ

② 当日の本隊の動き

ほぼ予定通りに7時30分過ぎに京都・大阪を出発
11時ごろ 穴文殊参道入り口に到着
国道に面した参道が機動隊によって完全に封鎖・占拠
京都③号車・大阪①号車・大阪②号車と合流
機動隊と中に入れるように交渉
「参拝者と関係者以外立ち入り禁止」という新たな掲示
門主をだせと要求 「檀家」と証する人物が対応 参道に入ることを拒否
脇道（農道）も封鎖
国道から参加者に基地建設予定地を説明
11時50分 経ヶ岬灯台の駐車場で前段集会
13時20分 京丹後市役所前到着
12・15 実行委員会ミーティング
情宣 宇川有志の会ニュース10号 近畿連絡会ビラ
14時00分 「平和の叫び&人間のくさり」開始
リレートーク（詳細は次項）
人間のくさり
デモ（峰山一周デモ）
15時10分 デモ終了・まとめ集会
15時45分ごろ 峰山出発

③ 「平和の叫び&人間のくさり」リレートーク

●呼びかけ人あいさつ 三野みつるさん（米軍基地建設を憂う宇川有志の会代表）

9月19日に知事の受け入れ表明がなされたが、府民の安全・安心は確保されていない。穴文殊の警備が厳しくなり、「参拝者と関係者以外立ち入り禁止」の看板がだされていた。京丹後市市役所に基地対策室が設置されたが、防衛省の職員がいつしょにおり、誰のために仕事をしているのかは明らかだ。防衛省は、地権者に賃貸借契約を迫ってきた。1反8000円ぐらいの賃貸借料を30万円にするとやっている。区の役員が地権者を訪れ、契約書への捺印を強引に迫ってきた。村に金が入るのになぜ反対するのか、村八分になるぞと脅かしてきた。しかし、金は一時、土地は末代までだ。地権者だけの問題ではない。沖縄と同様にあきらめずに頑張ろう。子どもや孫たちのために。秘密保護法を撤回させよう。基地建設をストップさせよう。

●実行委員会参加団体の代表の紹介

●地権者からのメッセージ 匿名（代読）

現地のおばさんのひとりごと。丹後の自然のなかに生まれ、豊かな山の幸・海の幸に恵まれてきた。高度成長の波がおしよせ、その後の経済の停滞のなかで、櫛の歯が

抜けるように過疎化が進んできた。先人の生活や文化を受け継いでいきたいと思ってきたが、黒雲が村をおおってしまった。みごとに過疎につけこまれた。100%の安全・安心などない。巨大基地だけがある丹後半島にはしたくない。

●漁民からのメッセージ 松田正信さん（代読）

中浜漁港で一本釣り漁業をやっている。Xバンドレーダーは、漁場に向けて強烈な電磁波を照射する。海の生態系にどんな影響を与えるのか、何も示されていない。魚群探知機の電磁波でさへ、魚は逃げてしまう。安直な政治的判断をすべきではない。次代の子供たちに、負の遺産を残してはならない。

●増田さん（上宇川連合区長）

1800人、650戸の地区にとって大変な課題だ。この地区で、最大240人が学習会に集まった。電磁波は、健康などに大きな影響を与える。議論を積み重ね、10回のピラにして全戸配布した。防衛省からは何ひとつ納得できる回答はない。12月10日に宇川の区長会が開催された。京丹後市の基地対策室に何をしてくれているのかを問うたが、米軍基地ができたときどれだけの警察官を配備できるのかという試案しか示さない。警察官を一人から15人に増やしたとしても、日米地位協定のもとで何ができるというのか。素朴な住民の疑問や願いに応えるべきだ。

●京丹後市議会報告 田中議員（日本共産党）

●伊波洋一さん（元宜野湾市長）からのメッセージ

●行動提起 永井友昭さん（米軍基地建設を憂う宇川有志の会事務局長）

6月15日に宇川での集会を行なったときには、今年いっぱいまで運動を続けられるかどうかわからなかった。しかし、今日、このように集会を開くことができた。向こうのシナリオどおりにはやらせてこなかったということだ。12月16日に、防衛省や副市長が参加して、袖志での住民説明会が行なわれる。これが袖志で最後の説明会だという。防衛省は、ほぼ土地を確保したといった。確かに、同意書は一筆を除くすべての地権者がだした。しかし、本契約書については、まだ二桁に近い方がだしておらず、土地を提供していない。しかし、そのような土地を含めて日米で基地の地図を合意した。安全・安心についても何の説明もない。46項目の質問状をだしたが、何の回答もない。とにかく土地を貸せと迫るだけで、安全・安心などほったらかしだ。今朝、穴文殊は5台の機動隊が封鎖した。力で押さえつけようとしているのだ。

怒りを四つの相手に向けよう。まず防衛大臣と米軍だ。12月12日、日米両国政府は基地の建設計画に合意した。「日本環境評価基準」にもとづき、環境影響評価を実施させなければならない。次に京都府だ。京都府は、府民説明会は必要ないといい、府民だよりもまったく載せない。車力ですら、青森県は県民説明会を開催している。京都でも府民説明会を開催させよう。そして、京丹後市だ。9月19日以降、市長は一度も市民の前に姿をあらわさない。市が防衛省に提出した10項目の要請を検証させ、住民説明会を開かせていかねばならない。

12月20日 署名提出・京都府申し入れ行動

4091筆を提出

「米軍Xバンドレーダー基地反対・京都連絡会」は12月20日、署名提出・京都府申し入れ行動をおこないました。参加者は9人でした。府側は総務調整課・塩見副課長ら3人が出席しました。

申し入れ行動では冒頭、京都連絡会・共同代表の白井美喜子さんが要請書を読み上げました。要請書の要請事項は以下の通りです。

要請事項

1. 政府・防衛省は、Xバンドレーダー基地建設に着工せず、計画を中止してください。
2. 京都府知事は、米軍Xバンドレーダー基地の受け入れ表明を撤回してください。
3. 環境影響評価、京都府下各地における住民説明会、日米地位協定の抜本的改正を実行してください。

最初に京都連絡会・事務局長の山本純さんより「緊急京都府民の会南部連絡会」から「米軍Xバンドレーダー基地反対・京都連絡会」に改称したことを伝えました。次に署名4091筆を白井さんから相手側に手渡しました。瀧川さんより「土地の賃貸借契約が先行して強引に進められているが、どのように考えているのか。宇川の中学校の跡地に米軍の自動車教習所がつくられるという情報があるが、把握しているのか。京丹後市に基地対策室がおかれているが、京都府の職員が入っているのか。」との質問があり、府側は「防衛省は地権者に同意書をいただき、今、本契約をいただきにまわっている。宇川中学校の跡地には現地連絡所をおくことを考えている。自動車教習所というのは、決まった話ではない。基地対策室には11月から府の丹後振興局の管理職が週一回行っている。」と答えました。山本さんが地権者の本契約書を見たことがあるか尋ねましたが、相手側は見えないとのことでした。また同意書や本契約書をとりまわっている状況を把握していませんでした。山本さんから「本契約書は契約期間が空欄、賃貸借料の欄も空欄、その状態で署名・捺印せよと迫っている。同意書をとるときには袖志の区長がまわって捺印を迫った。内容がひどいだけでなく、なかば脅しのような形で同意書をとっている。このような事実を把握していないことに驚いた。把握してください。」と発言し、府側は「防衛省からは区長さんをお願いしてまわってもらうということはしていない、と聞いている。」と発言しました。白井さんが「米軍住宅をどこにつくるかわからないとのことだが、全体の図面が出ないことには住民の安心・安全が担保できないのではないか。」「府民に対する説明会を開催すべきだ。」と追及しましたが、府側からは明確な答えを得られませんでした。環境影響評価をすべきだという意見には府側は「環境影響評価は防衛省が国内法適用外といっているが、もし国内法があたるとしても対象外である。電磁波、騒音、排水の関係は事前、事後で防衛省が調査することになっている。」と答えました。私たちは環境影響評価、住民説明会の開催を引き続き求めていくということで、今回の交渉を終えました。



(12・14フィールドワーク)

15日の集会に先立って、14日から現地フィールドワークを行いました。参加者は7名でした。

この日の天気は大変で、午前9時に京都市内を出発したときは快晴でしたが、山を二つ三つ越えて丹後半島についたころには雨やみぞれまじりの雪、海岸線に出たら吹雪で、強風のなか溶けかけの雪が残る道路を車を走らせるといったぐあいでした。

しかし午後1時前に穴文殊に着いたときには、運よく雨や雪も止んで、傘なしで現地を見学することができました。

この前に私が宇川現地に行ったのは11月13日ですが、それから一ヶ月の間に—とくにこの一週間ほどの間に—現地ではいくつかの変化が起きていました。

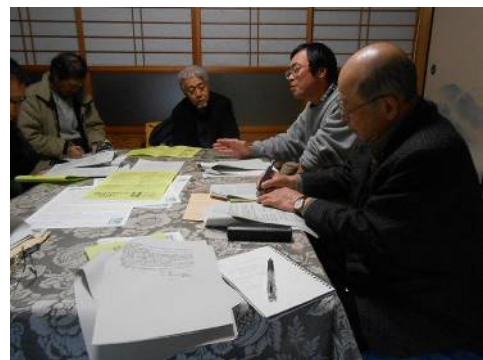
ひとつは、自衛隊基地の官舎地区の横にあった二つのパラボラアンテナのアンテナ（丸い部分）がはずされたことです。後に宇川有志の会の永井さんに話を聞いたところ近畿中部防衛局の説明は「じゃまになるから」ということでした。ただ、何の邪魔になるのかというちゃんとした説明はしてません。永井さんの話では、米軍Xバンドレーダーの設置予定地から朝鮮半島方面に120度の射程でレーダーを照射すると現在の官舎地区など一部陸地の上をかすめることになり、その関係ではということです。中浜、久僧、上野の集落（の一部）の上空もレーダーが照射されることになるそうです。「では現在、自衛隊機地の機能はどうなっているのか？」という疑問も出されていました。

ふたつめに、穴文殊の参道の入り口に「参拝者、関係者以外の立ち入り禁止—山主」という立て看板が設置されたことです。これは12月11日（水）に設置されたそうです。そういうわけで、参杯に向かい、あわせてレーダー設置予定地、米軍基地建設予定地、自衛隊拡張予定地を見学しました。

みつめに、これは14日の私たちが見学していた時間帯まではなかったのですが、14日の夕方か15日の朝に178号線沿いの自衛隊拡張予定地の端の部分に「農道につき関係者以外の車両の進入をご遠慮ください—尾和区長」という立て看板が設置されたことです。仕様は穴文殊の参道入り口に設置されたものと同じでした。

その後、午後2時半に上野にある宇川有志の会の永井さんのお宅におじゃまして、1時間半ほど永井さんに話を伺う機会を持つことができました。永井さんには事前に依頼して、防衛省による米軍基地建設予定地の地権者への本契約に向けた激しい切り崩し工作など、現地の最新状況を話していただきました。とりわけ11月9日の小野寺防衛大臣の現地視察以降、防衛省の動きが一挙に激しさを増したそうです。

翌15日午前には、京都・大阪からの近畿連絡会のバスが穴文殊に到着するまで少し時間があつたので、袖志、尾和、久僧の集落でフィールドワーク参加者で手分けして各戸ビラ入れを行いました。今回は休日の早朝でも会ったため、ポストへのビラ入れということで行いました。ただ、袖志でビラを入れているとき外で芋洗いをしている年配の女性の方がいて、声をかけてビラを渡すと、「私も米軍基地には反対だ。今日の集会にも行きたかったが、峰山までは遠くてよう行けない」とおっしゃっていたそうです。



12月14日 永井さんの話を聞く

いま防衛省は契約期間も賃貸料も空白のままの契約書を持って、それにただただ捺印を迫るといふむちゃくちゃなやり方で地権者に対して本契約を迫っています。宇川有志の会をはじめ、現地の方々との結びつきをさらに深め、京都市内から基地建設阻止に向けた声と行動をさらに強めていきたいと思えます。（池田）

南部連絡会学習会 II

2013/12/14 現在

1、防衛大臣現地視察（11/9）以降の動き

- ・ 11/7（木） 大湾氏以下6名と、せいぎ荘で戸別訪問の予定と内容を検討。
- ・ 11/8（金） 夜7時、「明日14時に防衛大臣が現地視察」との連絡が入る。それから各ルートへ連絡。連合区長へも地元袖志へも何の連絡もない事を確認。明日文殊さん前でお出迎えをしようということに決定。ネットにも上げ参加を呼びかける。
- ・ 11/9（土） ピラ9号全市に折り込み。12:50にTBSのクルーと一緒に文殊さんへ。ヘリポートに吹き流しあり、ヘリで来ること間違いなし。13時過ぎより三々五々目立つ者を持って仲間が集まってくる。14:00大臣ヘリで到着。車で分屯基地へ入る。警察の警護は厳重で我々のゾーンを袖志側に設置し大臣と敢えて会えないようにする。大臣は我々を全く無視。15:30、文殊さんに参って記帳してから車で市庁舎へ、このときも全く住民を無視。出迎えを反対側のより安全な歩道側に移そうとしたが、警察は頑強に拒んだ。16:00より大臣と市長の会談、記者会見。大臣は裏口から入り裏口から出る。住民は一切入れず。大臣は「北朝鮮の脅威が増強で目の強化が必要」と語り「住民の不安にも対応していきたい」とのこと。市長は国道の整備を大臣に求める。
- ・ 11/11（月） この日より袖志では三役が仮契約書を持って地権者回りを始めた。
- ・ 11/12（火） 「憂う会」㊟ 袖志で水面下の動き活発化、警察も2人対策室に入った。
- ・ 11/13（水） 南部連絡会のグループが袖志尾和にピラ配布と対話に入る。十数件で話をでき、「遠いところからご苦労さんです。心配です。」という言葉も多く聞いた、とのこと。
- ・ 11/15（金） 袖志の山口さんより、区の三役が回ってハンコ集めをやっていてもうちと数件しか残っていない。
- ・ 11/16（土） 文殊さんではラベンダーの移動作業が始まっていた。基地の二つの丸いアンテナの海側の方が撤去され櫓だけとなっている。
- ・ 11/17（日） 米軍関係者10名ほどがやってきて現地調査。九品寺境内の松の確認などを住職立ち会いでやった。数日間は滞在。
- ・ 11/18（月） 袖志の天下区長に事実確認と抗議要望の電話。地権者へは区の事情説明に回った。地権者のまとめ役という面もある。結果としてハンコということになっている。あと5件ほどだ。私は私欲なく、区のために信念を持ってやっている。仕方ない中での苦肉の行動だ。急ぐのは相手方があるからだ。あなた方も信念を持ってやられたらよい。とのこと。この夜防衛省の担当者が残りの5人から仮契約書を受け取り、袖志は全滅。残るは一筆の土地だけ。

- ・ 11/19 (火) 議員懇談会、間人地域公民館 (2 班 6 人)。芳賀議員、安全安心については 10/30 に聞いたことを市長に伝えている、その返答は聞いていない。地元の不安についてはよく分かる。大臣へは丹後町の議員ということで私たち 3 人が 1 分間だけ話した。「地元の不安の払拭を」と訴え「がんばってやりたい。」という返答を得た。督促の意見書を出した議員は今回の大臣の住民無視の態度を議員としてどう思っているのかには、返答なし。アメリカの軍人が多く予定地周辺をウロウロ。
- ・ 11/20 (水) 「基地対策室」を訪問し安田室長に「憂う会」からの質問状を手渡す。袖志の実態は知らない (三役のハンコ集めとは聞いていない)。この仕事は外からは見えないかもしれないがいろいろとやっている。説明会についても連合区長さんと相談してどうやるか相談している。質問状はこういう者をいただくとありがたい。防衛省や警察にも回答を振ることができる。今後ともちょくちょく来て下さい。
- ・ 11/22 (金) 「憂う会」㉔ 袖志の地権者の現状を交流、10 号ピラ発行と対策室への働きかけを確認、12/15 の発言者で協議。
- ・ 11/25 (月) 丹後連絡会㉕ 12/15 の件など打ち合わせ
- ・ 11/26 (火) 南部連絡会の数名が袖志戸別訪問の 2 回目。本音の話をしてくれる方の何人かおられた。
- ・ 11/27 (水) 袖志、役員 X バンド委員会合同会議。大村副市長、安田対策室長同席。袖志からの要望などの調整をしたとのこと。
- ・ 11/28 (木) 「女性の会」、対策室へ申し入れ。中学のグラウンドに米軍関係者の自動車運転訓練場を作りたいとのこと。三野さんの所に防衛省の担当者が来る。地権者の皆さんが出された「土地借り上げ同意書」が判明。「適切な価格」ならば契約書をかわすというもの。この日 12/15 のピラを丹後町に折り込み。
- ・ 11/28 (木) 新中学校問題総務部会→新中学校協議会。総務部会で大村副市長が宇中の 1 階に来年 4/1 より「対策室」を移したい。防衛省や警察も一緒という話あり。増田さんがそれは「要請か (市の決定というようなものではないだろうな)」と確認。副市長は「そうだ」。続いて開かれた協議会 (多くの宇川の区長が出席) で、教委の職員が副市長の中学校跡地の件は強いものだと言ったので、「それはおかしいあくまでも要請だ」ということを確認。
- ・ 12/1 (日) 文殊さんの自衛隊基地の丸いアンテナの 2 本目も撤去されていた。電磁波が宇川の集落の上を通る可能性が極めて高い。
- ・ 12/3 (火) ピラ 10 号宇川に折り込み。「憂う会」㉖、契約書全部が明らかとなる。最新の動きを交流、「対策室」への働きかけ強化と 12/15 の発言者を検討。批判的地権者の方への契約書学習会をやることにその場で決定 (紆余を経て 12/9、20:00 ~)。
- ・ 12/4 (水) 下宇川区長会
- ・ 12/5 (木) 夕方、「対策室」を訪ねる。相変わらず何もしておられないがと聞くと、

今説明会の材料を集めている所だ。12/10（火）に宇川区長会を開いて中学校跡地の件などを話す予定だ。11/27 に副市長と袖志に入ったそうだが、に対しては区の要望がいろいろとあるのでその調整に行っただけだ。それは本契約への地ならし以外の何物でもないし、中学校に入るといのは既成事実で中学校を米軍に差しだそうとしているということにしか見えない。向こうから居住地を宇川にという声もあるがあなたはどうか思うというので、全部宇川に押しつけようということですか。それはおかしい市の問題として考えてもらわないと。アンテナ撤去の件は何も知らないとのこと。

- ・ 12/6（金） 上宇川区長会
- ・ 12/8（日） 袖志で合同役員会が再度開かれ、大村副市長と吉岡信和議員が同席した。安田はこの件を6日には何も言わなかった。この日から袖志の地権者に対して防衛省の賃貸借契約書集めが始まる。9日10日の3日間で集めたいとのこと。9日には相当数が集められた模様。九品寺の住職も書類を提出。9名ほどは提出を見合わせている。
- ・ 12/9（月） 袖志の地権者の方（4軒）と契約書関係の学習会を開催。参加者は計9人。この場で、印鑑証明はすでに10月に多くの方が無料で取って防衛省に3通ずつ預けている（防衛省から境界確定立ち会い（一番大きなのが11/8（金））の時に持ってきて欲しいという指導よろしく）ということが判明。「土地借り上げ同意書」の法的拘束力は弱く、日付も空欄だし、適正な価格も不明のままでも十分契約の拒否はできる。賃貸借契約書は5条の期間と6条の価格が空白のままの全くの白紙委任契約でとんでもない代物である。価格についての190円とか300円とか言うのも口だけで何の保障もない。
- ・ 12/9（月） フォーアース第2号、全市に新聞折り込み。
- ・ 12/10（火） 宇川区長会副市長より中学校跡地への4者（「対策室」・防衛省・府警・府）の移動の話などが出される。反対・賛成の議論が分かれ、継続審議で終わった。こんな会議なら何度やっても仕方が無いの声。袖志区長は「安全安心を」というだけ。
- ・ 12/11（水） 丹後連絡会⑩ 12/15の具体的な詰めを行う。文殊さんの境内に「参詣者以外立ち入り禁止」の札が立った。主体は「山主」。レーダー予定地ではドラム缶撤去が行われている。
- ・ 12/12（木） 小野寺防衛大臣、2014年中にXバンドレーダー設置の見通しを表明。約束の丁寧な対応も不安の解消も安全安心の対策も何もないままの暴挙である。市12月議会一般質問開始。
- ・ 12/12（木） 防衛大臣発言に知事コメント。「とにかく防衛省は、われわれが要請している条件をしっかりと守り、地元の理解を十分に得ながら進めるべきだ。」京丹後市長コメント。「住民の安全・安心の確保のための諸条件の確認を求め、それに対し、政府一体となり真摯かつ万全対応するという回答を得ている。今後とも安全・安心確保のための諸条件の確実な履

行を大前提として、住民の不安や懸念がないよう、万般にわたり、誠実、丁寧な手続きを強く要請したい。」

- ・ 12/13 (金) 「憂う会」㊸ 袖志の現状 (未提出 9 名) を確認し、12/15 の細かい詰めを行う。袖志の 5/27 の 7 項目要求。11 月の 110 項目要求書入手。MBS の草薙・栗本が取材 (18:00 よりうちで夕食)。
- ・ 12/14 (土) 南部連絡会の 6 名が来られ学習会。

2, 状況をどう見るか

- ・ 予定地の土地確保は進んでいる。
- ・ しかし、本契約全員提出のメドは何もない。
- ・ 安全安心の具体的なことは相変わらず何もない。
- ・ 市内でこれ見よがしの道路整備が盛んに行われている。
- ・ 国は焦っている。事を地権者の説得だけに絞って袖志にしか目を向けていない。
- ・ 知事、市長はそのことで防衛省をよく思っていないもよう。
- ・ 宇川全体としては、諦めと反発と様々な思いが錯綜し人は口をあまり開かない。
- ・ 袖志・尾和の動きや「憂う会」の行動を黙って注視している人が圧倒的という感じ。
- ・ 機密保護法が施行されると、この件での活動に大きな制限がかかってくるのが予想され、そうなると大変なことになる。

3, 我々のすべきことは

- ・ とにかく大きな話題にして、防衛省の暴挙と不実を明らかにし、批判の声を全国に広げることが第一。
- ・ その上で、防衛省には約束の履行と米軍への「日本環境管理基準」実施要求を求める。京都府へは「府民説明会」の実施を求める。京丹後市へは「安全安心の確保」にかかわる「現地住民説明会」の実施を求める。それぞれの地域であらゆる手段でそれを実行する。
- ・ 以上のことを背景に、現地宇川では、契約を見合わせている地権者の方々を励まし、とにかくこの話を来年へ持ち込んで、居住地問題をメインに宇川全体の議論を起こしていく。

⇒国 (防衛省) に本当に有効な手段は、土地取得ができないことだけ。今ならまだその土地提供拒否を維持できる。それを続けながら、安全安心の具体策と居住地問題を公にして約束を実行させ、機密保護法とも絡めて問題点を全国に喧伝していく。

日米合同委員会合意事案概要

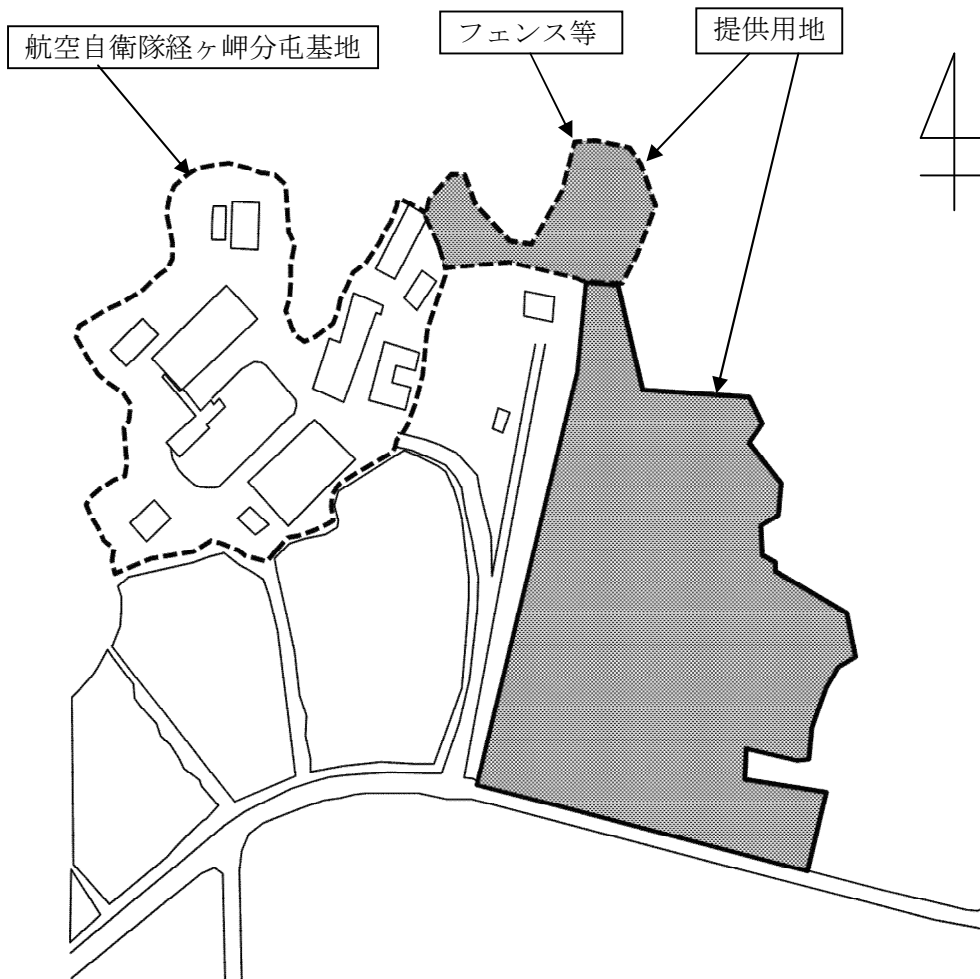
件名	航空自衛隊経ヶ岬分屯基地の一部及び隣接する土地等の取得について
承認年月日	平. 25. 12. 12.
施設・区域名称	FAC4169経ヶ岬通信所
合意対象所在地	京都府京丹後市
合意対象面積等	土地：約35,000㎡
	水域等：－
	建物：－
	工作物：フェンス等
	附帯施設：－

【事案概要】

本件は、米軍によるTPY-2レーダー配備に伴い、航空自衛隊経ヶ岬分屯基地の一部及び隣接する土地等を提供することについて、日米合同委員会の承認を得たものである。

記

土地：約35,000㎡
 工作物：フェンス等



「知らさない・イヤと言わさない・見せない・ …」

国家権力の姿を見せつけられた一日

白井 美喜子

丹後地方の秋冬の気象「うらにし」で小雨が降ったり止んだりの空が、時に本降りになったり、経ヶ岬では烈風が荒れ狂う中での抗議集会でした。

峰山での集会の前に、米軍基地建設予定地の下見をするために穴文殊に到着した私たちを待ち受けていたのは、参道入口をバリケードで封鎖し二重三重に阻止するすごい人数の機動隊員でした。それは、「穴文殊見学ツアー」として観光バスで到着した私たちであっても、一步も踏み込ませまいと国家権力が牙をむいて立ちはだかった姿でした。

基地周辺の住民ですら説明が十分でない、納得できる回答がないとますます不安が大きくなっている状況や、京都府民には説明会の一回も開かれていない中での、今回の機動隊の動きは、「国が決めたことに文句は言うな！黙って従え！」と強硬姿勢で圧力をかけています。府も市も「住民の安心・安全」を口を開けば言うけど、何の担保も無いままに住民の安心・安全を国に丸投げしたのです。そして国は米軍に丸投げしたのです。

基地の全容も明らかにしないまま、一方で土地の借り上げの本契約を焦る防衛省は、白紙委任状に等しい契約書に捺印を迫り、区の役員も地権者の家に行って「村のため」と強引に捺印させようとしているなどを聞くに付け、小さな集落ゆえに今まで親戚縁者・隣近所で助け合って暮してきた人たちが、自分の思いを口に出せない状況に追い込まれておられることが、痛いほど想像できます。

その地に住んで闘うだけでも大変なのに、地権者であるために村の行く末・国のあり方にまで責任があるがごとき説得をされて苦渋の選択を迫られておられるのです。その上、故郷を離れて暮す子どもたちの意向にまで沿おうとすれば、その苦しさは如何ばかりかと。これからもその地に住み続ける人たちが、集落の人間関係が壊れることなく暮せるようにと願うとき、私たちに何が出来るのかが問われています。

府や市が過疎地対策のために基地受入れの交付金を当て込んでいるとすれば、住民の安全・安心を守るどころか住民を踏み台にしているのです。過疎地であろうと都市部であろうとそこに住む人の命は同じ尊さです。踏み台にしていい命は何処にもありません。

基地はつくらさない！の声をもっともっと大きくしていきましょう！

「平和の叫び&人間のくさり」参加報告

12月15日、京丹後市役所前にて、Xバンドレーダー及び米軍基地設置反対のアピール行動が実施されました。京都駅前から約90名がバス2台（「穴文殊見学ツアー」として貸切）に分乗し、自衛隊基地があるレーダー設置現場へと向かいました。行動の前に見学（フィールドワーク）を兼ねて、大阪・宇治からの仲間たちと合流して集会を行う予定のもとです。

しかし！現地である穴文殊に到着してみると、機動隊がガッツリと入口を固めていました。ツアーご一行様である私たちは、見学どころか一歩も中に入れてもらえませんでした。曰く「お寺さんの御意向により本日のみ閉鎖」との事でしたが…

集会の場所を変更して、経ヶ岬で皆の決意を固め、京丹後市役所前へ移動しました。

各地から1,200名もの仲間が集まり、冷たい雨風のなかリレートークが始まりました。現地で生活している人たちの“声には出せない大きな怒り”を感じました。皆が手を繋いで鎖となった後、デモ行動を行いました。

政府は大急ぎで計画を進めています。京都府下の人達、いいえ現地に住んでいる人達にすら納得のいく説明を行わずに、です。何故か？

私自身、Xバンドレーダーって何じゃらほい？と無知でした。どのような代物なのか知ってみれば「そんな物騒なもん あかんやろ!!」と思います。説明すればするほど危険性が明るみになる。「安全なんだよ」なんて誤魔化しが出来なくなる。だから現地の人たちが「何なんやろ？」と首を傾げている間に、京都府民の殆どが存在すら知らない内に作っちゃえ!!出来てしまえばこっちのもんや!!と考えているとしか思えません…

「子供たちに自然豊かな丹後を残してあげたい」「ただ平和に暮らしたい」周囲との調和を大切にしている現地の人たちはこんな切実な思いを心でしか叫べません。彼らに替わって私たちが大声で叫びを上げましょう。

上山 玲子



12月15日 経ヶ岬灯台の駐車場での近畿連絡会集会

京都に 133 番目の米軍基地を造らせない

丹後市に突然降ってきた米軍基地建設計画に地元住民が抱く不安はいかばかりか、胸中を察します。漁業者の健康面や、沖のぶり・鯛・平目などに与える影響。遊魚やジオパークの遊覧船の利用客の激減で生計が脅かされる不安。基地から一日 5 万リットル出る排水の影響など、すべて暮らしに直結する問題ばかり。更に日米地位協定の運用で、米軍の暴行に対する不安も懸念されます。

配備に伴う今後 10 年間に亘って京丹後市に落ちる再編交付金は年 3 億円以上と聞きました。そして道路改修や農業施設整備など民生安定事業の恩恵も見込めるといふことも。国は第一次産業を見捨てておいて、今度は国を振りかざして過疎の村、高齢化率の高い村に札びらを見せて買収しようとしています。人々のそこでの暮らしは 10 年そこらで成り立ってきたものではありません。

今回「人間の鎖」に島本町から参加した宮前八重さんの話によれば、島本に峰山高校出身の女性がいて、間人に親の家があり、住民説明会に自分も参加したい（それくらい住民に説明している範囲は狭い）と言っておられるそうです。その方は舞鶴で自衛隊による性暴力があったことを覚えていて、米軍基地ができて 10 年もしたら、ここは人が住めなくなるよと。そこで暮らす多くの人たちは自分たちの築いてきた暮らしを守り、大根や白菜を収穫しながら静かに余生を送りたいと思っているよと。わたしはそれを聞いて反対の声を上げる住民の殆どが男性なので、女性の内心の声を聞けたようでほっとしました。

特定秘密保護法は 13 日に公布され、施行は一年以内。しかし 15 日バス 4 台で現地視察に訪れた際、九品寺の参道入り口は 30 名の機動隊が固めておりわたし達は足を踏み入れることが出来ませんでした。参加している人の多くは参拝もしたい人もいたのでは・・と思うとやり切れず、ひとり「参拝させてください」と訴えましたが、聞き入れられませんでした。こうして大勢で現地を見に来る人はテロリストとして扱う態度を見せ付けたのでしょうか？市役所前で「人間の鎖」集会のあとデモに出たけれど、警察に囲まれて行進する姿を現地の人々がどのような思惑で見ているのか気になりました。わたしは歩道を歩く人がいないので車に向ってのアピールと家の窓に向って手を振るなどしていました。それと途中、若い警察官が 10 人以上歩道にいてこちらを見ているので。「あんたたちは地元でしょ。突っ立っていないでこちらに来て一緒に歩きましょうよ！」と呼び掛けたりしました。今度来るときは、住民の方たちとおしゃべりをし、暮らしを通じた交流もしたいと思います。

安倍政権が言う集団的自衛権の行使は X バンドレーダー基地建設と密接な関係にあると思います。世論は秘密保護法廃止に向っています。この気流に乗せるためにも、地権者の方々が拙速に土地を手放さないでほしいと思っています。もっともっと時間を稼いで工事の着手を遅らせようではありませんか！

米軍Xバンドレーダー基地反対！

新春旗びらき

日時 2014年1月11日(土)午後5時～

会場 きずな事務所

呼びかけ

米軍Xバンドレーダー基地反対・近畿連絡会

米軍Xバンドレーダー基地反対・京都連絡会

永井友昭さん(宇川有志の会事務局長)が参加

12・15の取り組みの総括と今後の展望についての意見交換&懇親会

参加費 1500円(懇親会費を含む)

きずな事務所のアクセス

